

2023年度特別展

「やまぐち大考古博—みよう、ふれよう、やまぐちの3000年—」開催報告

阿 部 来

Special Exhibition in 2023 Yamaguchi Great Archaeological Exposition
“-Let's see and touch 3,000 years of Yamaguchi-” Exhibition Report

Rai ABE

山口県立山口博物館研究報告

第50号(2024年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.50(March 2024)

2023年度特別展

「やまぐち大考古博—みよう、ふれよう、やまぐちの3000年—」開催報告

阿部 来¹⁾

Special Exhibition in 2023 Yamaguchi Great Archaeological Exposition
“-Let's see and touch 3,000 years of Yamaguchi-” Exhibition Report

RAI ABE¹⁾

Abstract

A special exhibition was held at the Yamaguchi Prefectural Museum from July 21 to September 3, 2023. The purpose of this exhibition was to introduce the achievements of archaeology in Yamaguchi Prefecture. A total of 132 items were displayed, including two important cultural properties and 13 prefectural-designated cultural properties. The exhibition consisted of four themes symbolizing each period from about 3,000 years ago to about 150 years ago, with a 3D hologram exhibit and a hands-on corner to promote understanding. A stamp rally and related events were also held. A commemorative journal was published to make academic information available to the public.

Keywords Archaeology Utilization 3D hologram exhibition Experience

はじめに

令和5（2023）年度の特別展は、考古をテーマとする「やまぐち大考古博—みよう、ふれよう、やまぐちの3000年—」を開催した。会期は7月21日（金）～9月3日（日）、会場は山口県立山口博物館3階であった。

本展覧会の目的は、山口県における考古学の成果を一挙に紹介し、県内各地域の歴史、文化に基づく魅力を伝えることである。本展覧会は、当館にとって43年ぶりの考古部門の特別展となったため、山口県における考古学の最新情報を広く発信する重要な機会と位置づけ、企画・準備を進めた。また、独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターの「国立博物館収蔵品貸与促進事業」の採択を得て、当館として初めて東京国立博物館から13件の資料を借用することができた。

さらに、県内の教育委員会、文化財関係機関等の協力を得て、スタンプラリーや関連イベン

1) 山口県立山口博物館（考古）

トを各地で開催し、効果的な情報発信や集客の増加を目指した。また、展示内容を基本として、山口県における考古学の成果を伝える記念誌を刊行し、学術的な情報を形にして公開することに努めた。



1 東アジア交流と弥生人の到来
2 平戸・五嶽と瀬戸内沿岸
3 古代東葉の先進地 周防・長門
4 「西」の京・山口から世界遺産 萩城下町へ

出品目録

※表紙は、目録とおなじしくありません。
● 複製文化財【表】
▲ 山口県複製文化財【表】
◎複製文化財【表】

1. 東アジア交流と弥生人の到来				
No.	出土遺跡	資料名	所蔵者	頁数
1	土井ヶ浜遺跡	版鋳【表】	ニッポン放送社・人類学ミュージアム	4点
2	土井ヶ浜遺跡	指輪【表】	ニッポン放送社・人類学ミュージアム	2点
3	土井ヶ浜遺跡	花形貝製製品【表】	ニッポン放送社・人類学ミュージアム	4点
4	土井ヶ浜遺跡	三角形貝製製品【表】	ニッポン放送社・人類学ミュージアム	3点
5	土井ヶ浜遺跡	円盤状貝製製品【表】	ニッポン放送社・人類学ミュージアム	2点
6	梶家浜遺跡	多絡細文鏡	東洋国立博物館	1点
7	梶家浜遺跡	細形銅剣	東洋国立博物館	2点
8	梶家浜遺跡	細形銅剣	下関国立考古博物館	1点
9	地堂遺跡	透氣文清(精)白鏡	國立歴史民俗博物館	1点
10	地堂遺跡	垂弓筒	國立歴史民俗博物館	2点
11	沖ノ山古鉄発見地	朝鮮系無文土器壺【表】	財団法人東洋総合文化センター	1点
12	沖ノ山古鉄発見地	半周銭【表】	財団法人東洋総合文化センター	9点
13	沖ノ山古鉄発見地	五銖銭【表】	財団法人東洋総合文化センター	11点
14	沖ノ山古鉄発見地	半周銭・五銖銭 元文五年頒出覺【表】	財団法人東洋総合文化センター	4点
15	沖ノ山古鉄発見地	半周銭・五銖銭 宝曆十二年簡	財団法人東洋総合文化センター	4点
16	王塚遺跡	総縁飾付有柄銅形剣(複製品)【原品重文】	山口県複製文化財センター	1点
17	壺山獅子発見地	中込銅形弓【表】	山口県複製文化財センター	1点
18	続日本紀分地遺跡	人面土製品【表】	山口県複製文化財センター	1点
19	続日本紀分地遺跡	土管(陶げん)	下関市教育委員会	1点
20	明地遺跡	分銅土製品【表】	山口県複製文化財センター	1点

2. ヤマト王権と瀬戸内の古墳				
No.	出土遺跡	資料名	所蔵者	頁数
21	雲谷古墳	透氣文写銅鏡【表】	田中財形教育委員会	1点
22	雲谷古墳	鉄剣【表】	田中財形教育委員会	1点
23	雲谷古墳	鉄鏡【表】	田中財形教育委員会	1点
24	雲谷古墳	鉄子【表】	田中財形教育委員会	1点
25	雲谷古墳	鉄鏡【表】	田中財形教育委員会	5点
26	磯森古墳	鉄斧【表】	田中財形教育委員会	2点
27	竹島御家老墓敷古墳	船載三角縁紋文帝四神四穀鏡(複製品)【原品重文】	複製品・瀬戸内市教育委員会 原品・九龍宮遺跡発掘調査	1点
28	竹島御家老墓敷古墳	船載圓盾鏡(複製品)【原品重文】	複製品・瀬戸内市教育委員会 原品・九龍宮遺跡発掘調査	1点
29	竹島御家老墓敷古墳	船載(複製品)【原品重文】	複製品・瀬戸内市教育委員会 原品・九龍宮遺跡発掘調査	6点
30	竹島御家老墓敷古墳	鉄製青銅短刀(複製品)【原品重文】	複製品・瀬戸内市教育委員会 原品・九龍宮遺跡発掘調査	1点
31	柳井茶臼山古墳	船載圓文帝神鏡(複製品)【表】	東洋国立博物館	1点
32	柳井茶臼山古墳	仿製室形四神鏡(複製品)【表】	東洋国立博物館	1点
33	柳井茶臼山古墳	仿製室形四神鏡(複製品)【表】	東洋国立博物館	1点
34	長光寺山古墳	船載八咫鏡内行花文鏡【表】	宇部市教育委員会	1点
35	長光寺山古墳	仿製三角縁紋文帝三神三穀鏡【表】	宇部市教育委員会	1点
36	長光寺山古墳	碧玉製射形石【表】	宇部市教育委員会	3点
37	長光寺山古墳	仿製三角縁紋文帝三神三穀鏡【表】	宇部市教育委員会	3点
38	長光寺山古墳	巴形射形石【表】	宇部市教育委員会	1点
39	松崎古墳	仿製六角三神三穀鏡【表】	宇部市教育委員会	1点
40	松崎古墳	仿製六角内行花文鏡【表】	宇部市教育委員会	1点
41	松崎古墳	鉄刀【表】	宇部市教育委員会	1点
42	松崎古墳	鉄刀【表】	宇部市教育委員会	1点
43	松崎古墳	鉄斧【表】	宇部市教育委員会	2点
44	松崎古墳	滑石製勾玉【表】	宇部市教育委員会	6点
45	松崎古墳	碧玉製管玉【表】	宇部市教育委員会	14点
46	白鳥古墳	仿製半円方格帯四神四穀鏡【表】	白鳥神社教育委員会	1点
47	白鳥古墳	仿製二神三穀鏡【表】	白鳥神社教育委員会	1点
48	白鳥古墳	巴形銅盾【表】	白鳥神社教育委員会	5点
49	白鳥古墳	鉄刀【表】	白鳥神社教育委員会	1点
50	白鳥古墳	鉄斧【表】	白鳥神社教育委員会	1点
51	白鳥古墳	碧玉製管玉【表】	白鳥神社教育委員会	11点
52	赤妻古墳	船載三神二穀鏡	東洋国立博物館	1点
53	赤妻古墳	翠文鏡	東洋国立博物館	1点
54	赤妻古墳	位冠三山鏡	東洋国立博物館	1点
55	赤妻古墳	仿製五箇内行花文鏡	東洋国立博物館	1点
56	赤妻古墳	巴形銅盾	東洋国立博物館	2点
57	赤妻古墳	碧玉製管玉	山口県立山口博物館	3点
58	赤妻古墳	ガラス玉	山口県立山口博物館	14点
59	赤妻古墳	鉄斧	山口県立山口博物館	5点
60	赤妻古墳	滑石製輪	山口県立山口博物館	1点
61	天神山1号墳	赤妻古墳埋	山口県立山口博物館	1点
62	天神山1号墳	長方板蓋銅短甲	山口県立山口博物館	5点
63	天神山2号墳	鉄剣(複製)【表】	山口県立山口博物館	2点

64	天神山1号墳	鉄斧	山口県立山口博物館	5点
65	天王森古墳	大刀形短輪	下松市教育委員会	1点
66	天王森古墳	赤形短輪	下松市教育委員会	1点
67	天王森古墳	高次形短輪	下松市教育委員会	1点
68	忍ヶ谷古墳	赤形短輪	下松市教育委員会	1点
69	忍ヶ谷古墳	円筒短輪	下松市教育委員会	1点
70	忍ヶ谷古墳	朝鮮形短輪	下松市教育委員会	2点
71	宮原2号墳	高形短輪	下松市教育委員会	1点
72	萩塚穴群	壹段	萩市立博物館	1対
73	萩塚穴群	壹段【表】	萩市立博物館	1点
74	萩塚穴群	高輪	萩市立博物館	1個
75	上の山古墳	六銖銭	萩市立博物館	1点
76	上の山古墳	水晶製勾玉	萩市立博物館	10点

3. 古代東葉の先進地、周防・長門				
No.	出土遺跡	資料名	所蔵者	頁数
77	長倉瀬山跡	付木土鏡 伎師鏡【表】	美祿市教育委員会	1点
78	長倉瀬山跡	付木土鏡 神龜【表】	美祿市教育委員会	1点
79	長倉瀬山跡	銅鏡【表】	美祿市教育委員会	1点
80	長倉瀬山跡	からみ	美祿市教育委員会	3点
81	参考	インゴット(複製)	美祿市教育委員会	1式
82	長門鐘鏡跡跡	長門國造鐘鏡(複製)和同開珣鐘鏡(複製)和同開珣(重文)【表】	下関市立総合博物館	1点
83	長門鐘鏡跡跡	和同開珣	下関市教育委員会	1式
84	佐土門鐘鏡跡跡	和同開珣鐘鏡、和同開珣	山口県立山口博物館	1式
85	参考	和同開珣鐘鏡工程復元(複製、複製)	山口県立総合博物館	1式
86	鹿角鐘鏡跡跡	長年大	山口市教育委員会	1点
87	鹿角鐘鏡跡跡	短輪	山口市教育委員会	3点
88	鹿角鐘鏡跡跡	短輪口	山口市教育委員会	3点
89	周防国分寺跡	刀子	防府市文化財継生資料館	1点
90	周防国分寺跡	透雲帯 内面鏡、水鏡	防府市文化財継生資料館	1点
91	周防国分寺跡	木製 多良形(複製品)	防府市文化財継生資料館	1点
92	参考	筆、墨(複製品)	防府市文化財継生資料館	1式
93	周防国分寺跡	透雲帯 蓋書目、「鏡」、「釋表」、「佐土」、「國師」	防府市文化財継生資料館	1式
94	周防国分寺跡	鏡蓋銅鍍	防府市文化財継生資料館	1点
95	周防国分寺跡	紫色土製鏡(鏡内皮)	防府市文化財継生資料館	1点
96	周防国分寺跡	均形唐文軒平瓦	均形唐文軒平瓦	1点
97	周防国分寺跡	複弁蓮華文軒平瓦	防府市文化財継生資料館	1点
98	周防国分寺跡	均形唐文軒平瓦	防府市文化財継生資料館	1点
99	周防国分寺跡	複弁蓮華文軒平瓦	防府市文化財継生資料館	1点
100	長門時師	赤井蓮華文軒平瓦	光市文化センター	1点
101	長門深川廃寺	均形唐文軒平瓦	山口県複製文化財センター	1点
102	長門深川廃寺	赤井九蓮蓮華文軒平瓦	山口県複製文化財センター	1点
103	長門深川廃寺	唐文蓮華複弁蓮華文軒平瓦	山口県複製文化財センター	1点
104	見島ジーンゴボ古墳群(第58号墳)	銅製鏡【表】	萩博物館	1点
105	見島ジーンゴボ古墳群(第58号墳)	銅鈴【表】	萩博物館	1点
106	見島ジーンゴボ古墳群(第58号墳)	七スズ製勾玉【表】	萩博物館	1点
107	見島ジーンゴボ古墳群(第58号墳)	七スズ製勾玉【表】	萩博物館	2点
108	見島ジーンゴボ古墳群(第58号墳)	神鈴型 陸平土室 采和器室 真鍮土室(複製)【表】	萩博物館	5点

4. 「西」の京・山口から世界遺産 萩城下町へ				
No.	出土遺跡	資料名	所蔵者	頁数
109	山神神社経塚	銅製短輪【表】	山神神社	1点
110	山神神社経塚	伴鏡【表】	山神神社	1点
111	山神神社経塚	草花文鏡【表】	山神神社	1点
112	山神神社経塚	鏡刀【表】	山神神社	1点
113	山神神社経塚	鏡刀【表】	山神神社	2点
114	山神神社経塚	青白磁子【表】	山神神社	1点
115	山神神社経塚	墨雲透鏡【表】	山神神社	1点
116	阿房陀寺	鏡印大寺経印【重文】	阿房陀寺	1点
117	切御所遺跡	瓦瓦土器 瓦鏡	山口県複製文化財センター	4点
118	切御所遺跡	瓦瓦土器 書鉢	山口県複製文化財センター	1点
119	次内門前遺跡	砂錫研石	南市教育委員会	1点
120	次内門前遺跡	中国製陶磁器	南市教育委員会	1式
121	次内門前遺跡	備前茶	南市教育委員会	1式
122	次内氏館跡	白磁瓦片	山口市教育委員会	1点
123	次内氏館跡	金糸からし付	山口市教育委員会	5点
124	次内氏館跡	かわらけ 京都系	山口市教育委員会	5点
125	次内氏館跡	かわらけ 在来系	山口市教育委員会	5点
126	東福寺跡	龍文瓦片瓦	山口市教育委員会	2点
127	東福寺跡	風文瓦片瓦	山口市教育委員会	2点
128	中津原館跡	一括出土土鏡 備前茶 鏡瓦【表】	萩博物館	1点
129	萩城跡(外堀地区)	肥前磁器	山口県複製文化財センター	5点
130	萩城跡(外堀地区)	鉄砲	山口県複製文化財センター	5点
131	萩城跡(外堀地区)	糸原鏡	山口県複製文化財センター	2点
132	赤長陣屋跡	磁器類	山口県複製文化財センター	7点

表1 出品目録

1. 展示の構成と内容

本展覧会の展示品は、重要文化財2件、県指定文化財13件を含む計132件である（表1）。展示は、1 弥生時代、2 古墳時代、3 古代、4 中世から近代までの各時代を象徴する視点から4テーマを設けて構成した。

会場では、プロローグとして県内遺跡の写真映写と特設展示ケースによる下松市出土埴輪の展示をおこなった。これに続けて、時代別の4テーマによる展示部分および、写真・3Dホログラム展示・体験コーナーなどによる1テーマを配置し、全体では計5テーマでの設営を行った（図1）。

各展示ケースには遺跡単位での展示品を基本として、解説パネルを設置した。

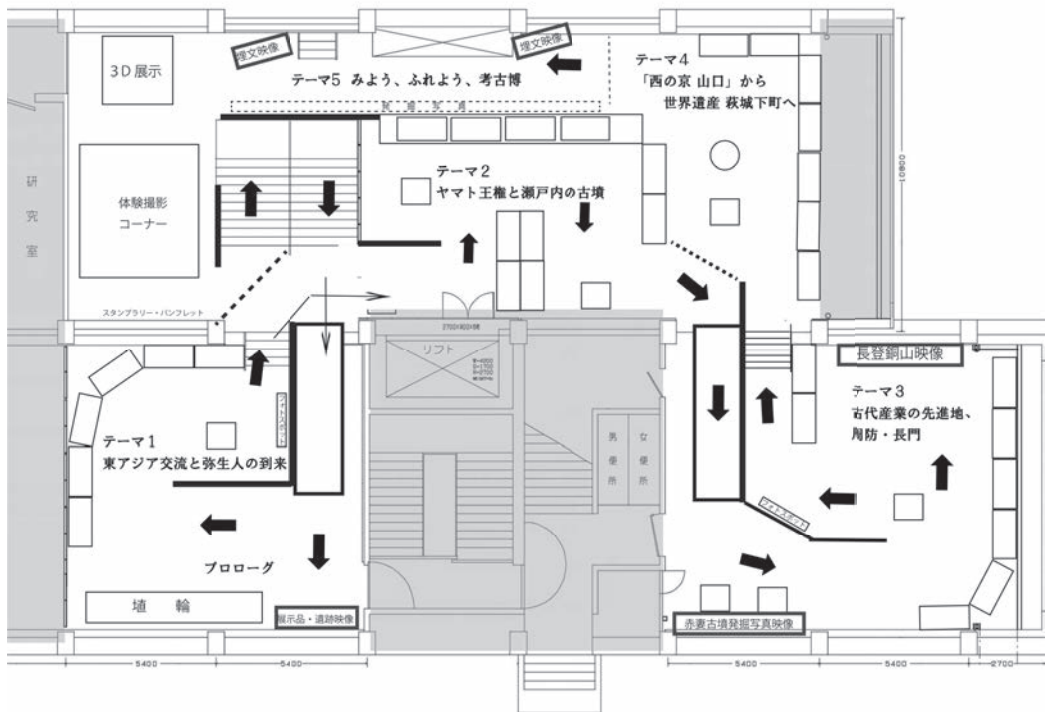


図1 会場配置図

1 プロローグ

第1部プロローグでは、スロープ壁面に発掘調査現場の風景をイメージした土層パネルやスコップ・一輪車などの機材を展示した（写真1）。正面には県内の主要な遺跡を紹介する写真スライドを映写し、近年発掘された注目資料である下松市出土の埴輪群を特設ケースに配置した（写真2）。

発掘調査のイメージと目玉となる展示品を冒頭におくことで、観覧者の興味を高めることをめざした。



写真1 プロローグ 発掘調査風景のイメージ



写真2 県内遺跡の写真映写、下松市出土埴輪

2 時代別の展示

(1) 東アジア交流と弥生人の到来

弥生時代の響灘沿岸において、中国大陸・朝鮮半島・南西諸島などからの渡来文化の影響が極めて強く見受けられることに着目し、テーマを設定した（写真3）。たとえば、下関市の土井ヶ浜遺跡では、弥生時代前期から中期にかけての渡来系の形質を持った約300体にもおよぶ人骨や南西諸島産のゴホウラやイモガイ製の腕輪、マキガイ製の指輪など豊富な装飾品が出土している。

下関市の梶栗浜遺跡では朝鮮半島からもたらされた細形銅剣と多紐細文鏡を副葬した箱式石棺墓、地蔵堂遺跡では中国漢代の馬車に立てた傘の骨に被せる蓋弓帽と前漢鏡の連弧文精白鏡が見つかった。複製品の展示となったが、長門市王屋敷遺跡の把头飾付有柄細形銅剣は、国内で佐賀県吉野ヶ里遺跡など4例の出土したうちの1つである。発見時には連弧文



写真3 テーマ1展示、人面土製品フォトスポット

昭明鏡も出土したとの伝承があり、王屋敷遺跡はクニの王墓とみられる。いずれも、同時代の日本列島においては希少品である。とくに蓋弓帽は国内唯一の出土例であり、『漢書』地理誌にいう倭の百余国に数えられるようなクニの王が漢より下賜されたとの評価もある。

また、『魏志倭人伝』に記された顔面に刺青を表現する人面土製品や中国華北地方に淵源を持つという土笛（陶埴）の出土した綾羅木郷台地遺跡、朝鮮半島系の甕に入った半両銭と五銖銭が計約100枚みつかり国内最多の漢代銭出土例となっている沖ノ山なども、多様な東アジア交流の経路が本州西端で展開していたことをうかがわせる。

(2) ヤマト王権と瀬戸内の古墳

ヤマト王権と各地の首長との政治的関係を示すのが、前方後円墳である。県内の前方後円墳は、いずれも瀬戸内海沿岸に築造されている。弥生時代との比較において、主要遺跡の分布が響灘沿岸から瀬戸内海沿岸へと明確に転換することは、ヤマト王権が瀬戸内航路を重視し、その西端にあたる地域の首長を積極的に政治的関係の中に取り込んでいったことのあらわれであろう。この点を主題として展示を構成した。

古柳井水道と呼ばれる柳井市から田布施町・平生町一帯に広がる低地は、かつては海峡であったと考えられている。古柳井水道の西側の入口には柳井茶臼山古墳、東側の入口には白鳥古墳が海峡を見下ろす位置に築かれており、海上交通を掌握した首長の存在を推定させる。柳井茶臼山古墳は全長90mでくびれ部に造出をもち、船載画文帯神獸鏡や仿製八弧内行花文鏡、国内最大の径44.8cmの仿製単頭双胴怪獸鏡のほか、円筒形埴輪・朝顔形埴輪・蓋形埴輪・家形埴輪などが出土している。白鳥古墳は県内最大の全長約120mで陪塚を付し、副葬品には倣製鏡2面、鉄斧、管玉などがある。

内陸部では山口盆地の天神山1号墳と赤妻古墳の豊富な出土品が目される。前者から

は長方形革綴短甲及び頸甲等の武具、後者の箱式石棺及び小石室からは舶載二神二獣鏡・長方板革綴短甲・巴形銅器、舟形石棺からは位至三公鏡・倣製五弧内行花文鏡・振文鏡のほか堅櫛・玉類等が出土している。これらの甲冑や舟形石棺は県内でも唯一の例であり、古墳時代中期にヤマト王権と直接的な関係をもった首長が出現したと推測される。

(3) 古代産業の先進地、周防・長門

奈良時代以降、周防・長門では豊富な地下資源をもとに新たな産業が大きく発展した点に注目しテーマを設定した(写真4)。

長登銅山跡からは、多量のからみや炉壁、鞆羽口といった銅生産を示す遺物のほか、約830点の木簡が出土している。多量の木簡は文字により生産や搬出などを管理したもので公的機関による経営を示すものである。また、長登という地名は、奈良の大仏建立に際して、銅を献上した「ならのぼり」に由来したとされる。

そして、この銅を用いて、8世紀の長門鑄銭所跡では和同開珎、9世紀の周防鑄銭司跡では承和昌宝・長年大宝・饒益神宝などが鑄造された。両遺跡では、鑄造に用いられた鑄型や埴塼、鞆羽口などが多量に発掘されている。また、9世紀から11世紀にかけては『延喜式』に「長門國瓷器」として現れる緑釉陶器にも銅鉛が用いられていた。地下資源に恵まれた周防・長門において国家直轄の産業振興が進められたことがうかがえる。

(4) 「西の京 山口」から世界遺産 萩城下町へ

中世から近代にかけての武家城下町を中心にテーマを設定した(写真5)。室町時代、畿内・西国の覇権を握った大内氏によって、山口では京都をモデルとした都市整備が行われた。多くの公家や僧侶などが京都から移住し、この地に新たな文化がもたらされた。大内氏館跡からは手づくね成形による京都系かわらけが多量に出土しているほか、全国でも



写真4 テーマ3展示、和同開珎フォトスポット



写真5 テーマ4展示、テーマタペストリー



写真6 テーマ5展示、壁面写真パネル

希少な金箔かわらけも確認されている。大内氏館跡の朝鮮半島産とみられる白磁耳杯や高麗青磁といった希少な陶磁器や乗福寺跡で出土した龍文滴水瓦や鳳凰文軒丸瓦も注目すべ

き資料である。大内氏が京都と朝鮮半島との交流の要として、地域の特性を最大限に活用した領国経営を行ったことが読み取れる。

大内氏滅亡後、江戸時代になって毛利氏が本拠地としたのが萩である。世界遺産として登録されている萩城下町では、町家から出土した陶磁器や生活道具を展示した。

(5) みよう、ふれよう、考古博

展示全体の振り返りや最新技術による活用を目的として、発掘調査の写真や3Dホログラム展示、学習教材を活用した体験コーナーを設けた。山口県におけるこれまでの代表的な発掘調査と文化財保護の歩みを振り返るA1サイズの写真パネル11枚を制作し、壁面に展示した(写真6)。また、3Dホログラムとハンドトラッキングセンサを組み合わせた装置を当館理工部門の学芸員と共同で開発し、綾羅木郷台地遺跡の人面土製品や惣ヶ迫古墳の朝顔形埴輪といった各展示品を3Dで詳細に観察する学習機会の提供を行った(写真7左)。

最後の体験コーナーでは、当館が注力している学校現場での出前授業などで使用する貫頭衣や弓などの学習教材と動物部門より提供を受けたニホンジカの剥製を用いて、記念写真の撮影ができるフォトスポットを設置した(写真7右)。



写真7 テーマ5展示、3Dホログラム展示、体験コーナー

2. 関連企画

県内の教育委員会、文化財関係機関等の協力を得て実施した関連イベントは、23件である(表2)。展覧会の会期を中心に、関連展示、体験講座、シンポジウム、講演会などを各所で実施したことで、県内全域での連携した取り組みを進めることができた。

実行委員会の主催した関連企画は、特別展PR動画のYoutube配信、スペシャルトーク、シンポジウム、スタンプラリー、「はにわづくり」キット配布である。PR動画のYoutube配信は、山口ふるさと大使の松村邦洋氏のチャンネル内に掲載し、会期末までに約4000回の視聴があった。スペシャルトーク「発掘からみるやまぐちの3000年」(7月23日開催)は、松村邦洋氏、山口市教育委員会文化財専門監の古賀信幸氏、当館館長西村和彦の3名が登壇した。展覧会の見どころなどについて語り、約300名の参加があった。なお、Youtube配信とスペシャルトークは、文化財活用センターより広報費として費用を支給いただくことで実現にこぎつけた

第50号 2024〕 2023年度特別展「やまぐち大考古博—みよう、ふれよう、やまぐちの3000年—」開催報告

主催	名称	場所
山口大学埋蔵文化財資料館	連携企画展「山口大 考古博」	山口大学埋蔵文化財資料館
下関市立考古博物館	発掘速報展「甕したほ!下関2023」×山口県埋蔵文化財センター巡回展「発掘された山口」	下関市立考古博物館
下関市立考古博物館	夏休み“ものづくり体験” ①土笛づくり、②勾玉づくり、③土器文様ペンダントづくり、④竪穴住居模型づくり	下関市立考古博物館
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	土井ヶ浜遺跡発掘調査70周年・人類学ミュージアム開館30周年記念企画展「新説・土井ヶ浜弥生人」	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	土井ヶ浜遺跡発掘調査70周年・人類学ミュージアム開館30周年記念フォーラム 『埋蔵文化財（歴史遺産）を活用した街づくり、地域づくりで、未来をつくる』	下関市教育センター
宇部市教育委員会	夏休み考古学企画「勾玉を作ろう！」	学びの森くすのき 市民交流室
宇部市教育委員会	夏休み展示企画 「宇部市の焼き物の歴史」	学びの森くすのき 展示室
山口市教育委員会	スポーツ展示「発掘からわかる中世の山口」	山口市歴史民俗資料館
山口市教育委員会	文化財教室「遺跡の発掘と銭づくり体験」	史跡岡防跡縄文及び縄銭可掘土館
山口市教育委員会	文化財教室「製塩土器と塩づくりの体験」	山口市秋穂地域交流センター
萩市	大井天長山古墳出土遺物 萩市里帰り展	萩市大井公民館地域学習室
防府市	岡防国府の繁づかい・息づかい	防府市文化財郷土資料館 スポット展示室
下松市教育委員会	埴輪を作ろう!	はしらんどくだまつ 工作・工芸室
下松市教育委員会	企画展「破片でみる古代の息吹」	島の学び舎
岩国市	久西盆地の弥生時代・古墳時代	玖阿あいあいセンター（清水遺跡展示室）
光市教育委員会	勾玉・埴輪づくり体験講座	岡防の森ロッジ（光市野外活動センター）
長門市教育委員会	石器から鉄器へ	長門市総合文化財センター（ヒストリアながと）
柳井市教育委員会	黒島浜遺跡と芦道遺跡	しらかへ遊館
周南市教育委員会	夏休み まが玉づくり体験	周南市教育委員会 港町庁舎
山陽小野田市教育委員会	「やまぐち大考古博」連携講演会	山陽小野田市市民館
田布施町教育委員会	「大波野 宇納蔵の古墳展」	田布施町郷土館
山口県埋蔵文化財センター	「ほっちゃん山口」夏季特別展示	山口県埋蔵文化財センター
山口県埋蔵文化財センター	勾玉作り体験会	山口県埋蔵文化財センター

表2 県内関連イベントの一覧

企画であった。

記念シンポジウム「やまぐち大考古博—みよう、ふれよう、やまぐちの3000年—」（8月20日開催）は、山口県文化財愛護協会との共催で実施した。渡辺一雄氏（山口考古学会会長、元梅光学院大学教授）による基調講演の後、山口県埋蔵文化財センターの石井龍彦氏、岡田裕之氏、森田孝一氏、岩崎林志氏が加わりトークを行った。参加者は約100名であった。

やまぐち大考古博スタンプラリーは、県内21か所の参加施設を楽しみながら考古学と各地域の魅力に触れてもらうことを目的に7月1日～9月3日にかけて開催した。記念グッズは山口博物館とその他の3か所の計4か所を巡ってスタンプを集めることで応募できる仕組みとし、約600名の応募があった。

3. 開催実績

特別展入場者数は8,023名、関連イベント参加者数は17,864名、本展示会への参加者は計25,887名であり、目標を達成することができた。また、有料入館者が約53%を占めており例年よりも高い数値となった。

アンケートの回答者は、501名であった。山口市を中心に県内全域はもとより、県外からも

多くの来館があった。年齢層は40代以上の中高年齢者が半数強を占めており、小学生が中心となる例年とは異質な結果である。また、隣接する県立美術館がジブリ展を同時期に開催したため、年齢層のすみわけが起こった可能性もある。東京国立博物館、国立歴史民俗博物館が所蔵する資料を含めて県内を代表する品々を一堂に会して展示したことで、資料そのものが観覧できよかったという意見が多数あった。また、解説パネルのレイアウトや写真・映像、3Dホログラム展示、フォトスポットは好評であった。

反省点としては、音声ガイドが準備できなかったこと、写真撮影を原則禁止としたことについて疑問の声があったことである。また、個人差はあるものの展示パネルに記した解説文の内容や分量について指摘があった。解説文はできる限り端的かつ平易な文章にするという意図があり、文字数は150字程度をめどとした。しかし、より詳しい解説を知りたい方には解説シートやWEBでの解説などを準備してもよかったかもしれない。

展示品の写真撮影は、出品交渉の過程で打診したところ賛否があり、十分な調整ができなかった。会場での混乱も予想されたため、写真撮影は原則禁止とした。そのかわりに、テーマ1の人面土製品とテーマ3の和同開珎は壁面に特大パネルを貼り付けたフォトスポットを設置した。

記念誌は、採算性や在庫過多を懸念していたものの、会期中に当初の予定数を完売した。そのため会期中に急遽増刷を行ったが、会期末には増刷分も完売となった。県内の考古学研究に関する成果を通覧できる書籍として、今後活用されることを願う次第である。

おわりに

本展覧会は、担当者としての着任から開幕まで1年4ヵ月という切迫した状況のなかで企画・準備を進めた。そのため、重要な資料を見落としていたのではないかと、より楽しくわかりやすい展示を実現できたかもしれない、という反省と懸念を抱いている。

文化財の活用が求められる時代を迎え、博物館が地域の歴史や文化などの情報をこれまで以上に広く伝えることが必要である。しかし、同時に多くの方に興味や関心を持ってもらうことの困難さも痛感する。

県内の発掘調査や考古学研究の成果に関して、本展覧会や関連企画の参加者に思い出として持ち帰ってもらうことができているならば、それは文化財の活用にも他ならない。歴史や文化を楽しむことで文化財保護へとつながる試みをこれからも試行錯誤していきたい。

【謝辞】

本展覧会は渡辺一雄氏、石井龍彦氏、岩崎仁志氏からの温かいご指導と山口県埋蔵文化財センターや県内で考古学研究を進めてこられた諸賢の全面的なご協力のもと開催することができました。「国立博物館収蔵品貸与促進事業」にてご支援をいただいた国立文化財機構文化財活用センター・東京国立博物館様、展示品の出品者や実行委員会をはじめとする関係者の皆様にも多大なるご協力を賜りました。記して深く感謝申し上げます。